

JWFファンド2019 実施概要

2.ウガンダ

- 団体:Rural Aid Foundation (RAFO) (#229)
- 期間:2019年10月~2020年3月
- 実施地:ウガンダ、キバーレ県
- 費用:1,157ドル(JWFファンド1,000ドル、受益者57ドル、実施団体100ドル)
- 受益者数:1,500人(5-17歳の子ども)
- 実施地の水問題:キカアダ村にあるキカアダ公立小学校には、5歳から17歳までの1,500人の生徒と児童が通っている。この学校の水源はキャゲファ湧水しかなく、近隣の貿易センターや、毎週末に開催されるキカアダマーケットもこの水源を使っている。2019年3月の豪雨で、土砂が流れ込んだことで、キャゲファ湧水が使えなくなってしまった。このため、キカアダ小学校の児童たちは、3キロ以上離れた池まで歩いて水を得るしかない。この池は地元のアルコール蒸留センターも使用しており、アルコール残留物によって池の状態が悪化している。2019年3月以来、保健所の報告によると、ビルハルツ60症例と腸チフス56症例が記録されている。この池はキカアダの住民も使用するため、水汲みの長い列ができ、児童たちは授業を欠席している。牛などの動物も、この池の水を飲んでいる。
- 主な活動内容:関係者との初回ミーティング、水管理委員会の設立と維持管理トレーニング、キャゲファ湧水設備の修繕(周りに囲いの設置と植樹)、生徒へ水処理と煮沸消毒の実演、地域住民への意識啓発のラジオ放送、水質検査



飲み水や蒸留酒用に使用されていたため池
(プロジェクト前)



水処理と煮沸消毒の実演に参加する
キカアダ小学校の生徒たち

JWFファンド2019 フォローアップ結果 2021年1月現在

2.ウガンダ

【現状】

- 湧水保護設備…故障などなく使用でき、水量も安定している。
- 維持管理…水管理委員会が設備の維持管理や周辺の草木剪定を実施している。

【変化】

- 病気の減少…腸チフスやコレラなどの罹患率・死亡率の減少を住民が実感している。
- 経済効果・雇用創出…湧水の水を活用した小売りやバイク清掃で収入を得る人が増加。
- 協力体制の強化…水管理員会と村長の協力体制が構築されている。

【その他】

- 予想外の影響や住民たちの争いは起きていない。
- 水汲みの少女暴行事件をきっかけにリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康と権利）の取り組みへ実施団体の関心が向いた。



JWFファンド2019 フォローアップ結果 2021年1月現在

2.ウガンダ

現場からの声(抜粋)



Baguma Augustineさん
(40歳、キカアダ村がある地域議会の議長)

私たちの村に湧水保護設備を建設してくれたRAFOに感謝します。まず第一に、住民たちは家から水源まで遠く離れていたため、衣類を洗うことはありませんでした。今では水を使えるようになったことでいつでも好きな時に服を洗えるようになり、一般的な意識と衛生状態が改善しました。

また、湧水保護設備が修繕されてから、病気に罹る人が減りました。少なくとも行政教区に提出した2020年7月～11月の村の報告書では、腸チフスに罹った子どもは2人のみでした。2019年の同時期は21人(腸チフス、腹痛、下痢症など)が病気に罹り、7人が亡くなっていました。

また、湧水保護設備から汲んだ水を売って得た収入で祖母の面倒を見る少年や、バイクタクシーの洗車で収入を得る少年たち、小分けにして販売する女性たちもいます。



Tibiita Annetさん
(22歳、水管理委員会のメンバー)

大雨による土砂で湧水保護設備の水路が埋まってしまった時、村人たちと協力して片づけました。私たちが苦労したのは、メンバーの中には携帯電話を持っていない人もいれば、農期には畑に出てしまって連絡が取れない人がいることでした。そこで、自転車を持っていて、携帯電話で連絡を取ることが出来るKyamanywa peteroさんを委員長に任命しました。これで連絡のやり取りが楽になりました。

住民たちからは、一人500ウガンダ・シリングを徴収し、5月に設備の床を張り替えることに合意を得ています。



Nabusaayi Maryさん
(44歳、キカアダ公立小学校の教師)

学校にいる時も家にいる時も、湧水保護設備の水を使っています。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響で、今は学校が再開するまで自宅待機しています。

意識啓発のラジオ放送で、汲んだ水を沸騰させてから飲むことを学びました。フルーツジュースを作るときは、必ず沸騰させています。この村では子供たち全員に教えています。保護者たちには、清潔に保つために湧水保護設備で洗濯しないようお願いしています。

プロジェクト完了後、汚れた水に起因する病気の薬を子供のために買うことが減りました。

2020年4月以前は、子どもたちが腹痛を訴え続けていたので、薬を買うのに3万シリングほど使っていました。COVID-19によるロックダウンに入ってから、私の4人の子供たちは誰一人として病気になっていません。